

●題名

2015年6月20日土曜 苦土川大沢左俣遡行

●参加者

松村(リーダー、記録)、若林、長谷部

●行動記録

まさかの 15 時間半行動になった。

事前計画が遡行 6 時間、下山 3 時間半であったのに対し、実際は遡行 8 時間半、下山 7 時間(!) だった。本ルートに挑戦するには、我々は力不足だったと言える。

下山路を間違えて時間をロスした。これはリーダー(私)がルート情報を事前に調査していれば防げた。猛省する。

また、遡行の核心を越えた後から行動スピードがどんどん遅くなった。これは初級者 2 人のペース配分が悪かったためである。沢登りにおいては、遡行と同じくらいツメや下山もしんどい。遡行の核心を越えた後に、あと半分残っていると気合いを入れ直すぐらいのペース配分で臨んでほしい。

4:30	集合
6:00	車デポ→出発
7:00	入溪
7:45-9:15	F3/20m(高巻き→懸垂 2 回)
9:45	二俣
10:15-45	18m 滝(1 ピッチ)
11:15-12:15	50m 滝(2 ピッチ)
(ツメは腰の高さの笹藪漕ぎ)	
14:30	稜線
15:45	大峠
(峠沢沿いのショートカット道を試すが、道を見失い引き返す)	
19:30	三斗小屋温泉
21:30	車

●ルート選定

最初は同水系の井戸沢を予定していたが、会山行の行き先が井戸沢だという話を聞いて、場所を変更することにした。行き先を探してルート図をあたると、苦土川大沢右俣というのがあり、「左俣との出会いに懸かる滝は、一見登れなさそうだが、取りつくと意外と登れる」と書いてあるので左俣に興味をもった。

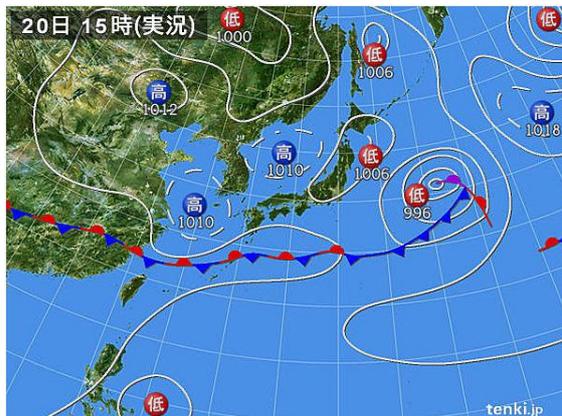
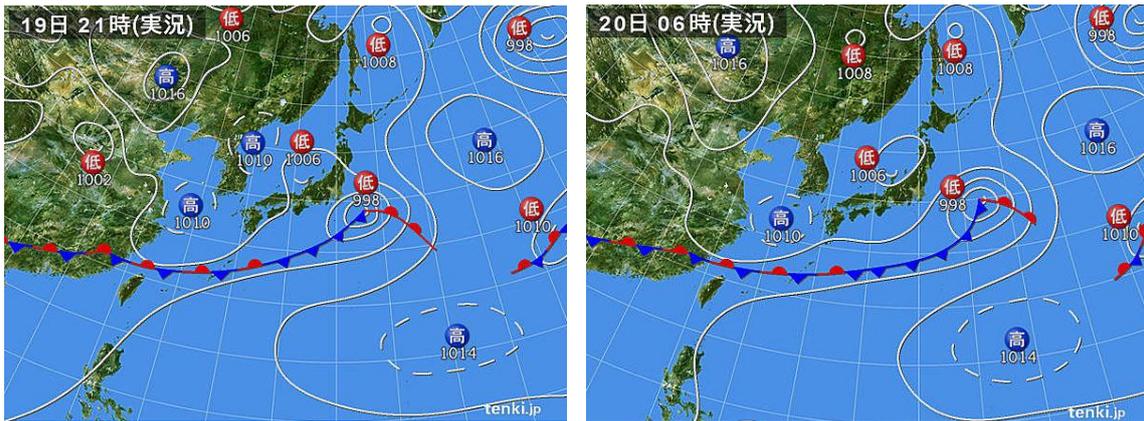
その後、当会随一の沢屋である齋藤が「昔、遡行しました。面白いですよ」と言うので、大沢左俣に決定した。

●天気図

はじめの予報は、遡行日に寒気が流入するという内容だったが、その後に予報が変わって、寒気が前日午後(6/19 金曜)に入るように思われたので、天候が安定している午前中のうちに遡行を終えて稜線に出て素早く森林限界下に逃げる計画で入渓した。

当日の天気は、晴れ→午後から雨。

天気の読みは当たったが、行動スピードが遅かったため、途中で雨に捕まりびしょ濡れになった。



6月13日～19日の積算降水量は、黒磯で37.5mm。沢の水量は少なく、遡行に支障はなかった。

●写真と記録

まず私が 30 分遅刻する。

誠に申し訳ありませんでした。「アルパインパートナーとの信頼関係の第一歩は、山行の約束を守り、時間を守ることから」です。

深山ダムの手前で舗装路が終わり、砂利道の林道を進むとゲートがある。そこに車を停める。釣りと
思われる車があちらこちらに駐車してある。

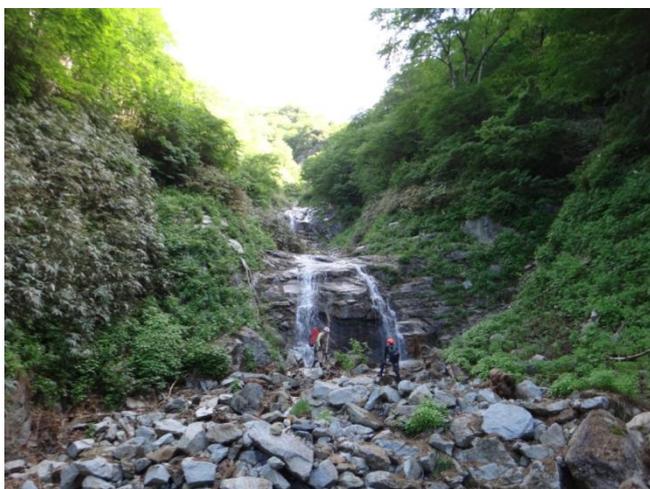
大沢沿いの林道が終わるところが最後の堰堤である。我々は少し手前の林道分岐から入渓して
しまい、堰堤をいくつか余分に越えた。

西沢との出会いは顕著だった。

その先で、おがくずのようなものが散乱しているので不思議に思っていると、奥に雪渓が残ってい
た。横を歩いて通過した。



その後、沢が左側に曲がりながら、谷が狭まってきて、最初の滝が現れる。



←明るく霽囲気のよい沢である

簡単な滝を越えていくと、F3/20m が現れる。

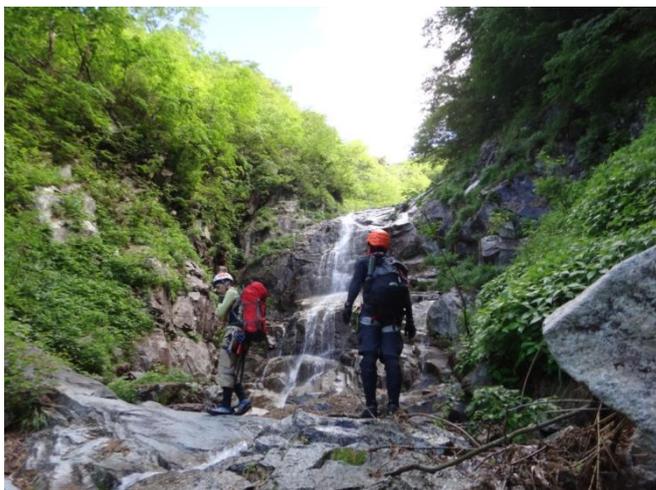
齋藤が「面白い」というのはこの滝であろうが、遡行図には「右岸を高巻く」とあるし、急いでいるし、
と言いつつながら高巻く。

新人ながら登攀力抜群の長谷部からは「(向かって)左のルンゼに登れる」と意見があったが、下山後に記録を調べると別のルートからの方が簡単に登れるようだ。ぜひカ*をつけて挑戦してほしい。 *プロテクションのセット技術

高巻きは、藪の薄い所を選んでいくと上へ上へと導かれ、崖で行きどまりになった。そこから立木で懸垂する。15m と 25m の 2 回(装備は 50m ロープ 1 本)。2 回目の 25m は、後から考えると、木が多いのでクライムダウンできたかもしれないが、初見のルートだったのでそんな気は起らなかった。

ちょうど滝の上に降り立つ。落ち口はつるつるしていて難しそうだ。

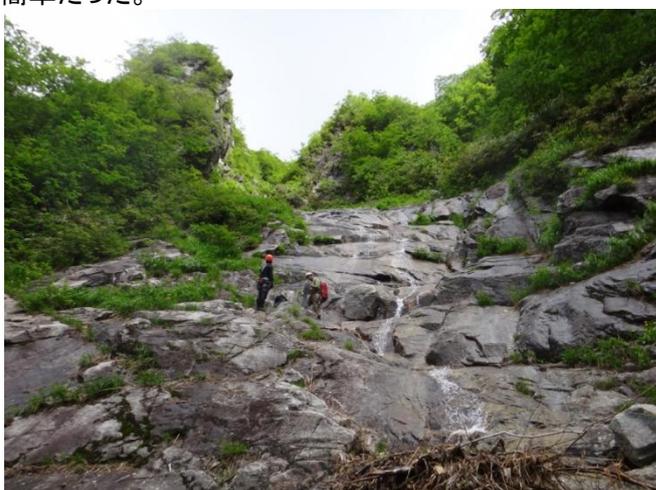
もっと下部でトラバースできれば懸垂で時間を消費することもなかったが、トラバースできなかった。ルートファイディングが未熟である。



←20m 滝。登っている記録もあるが、
今回は巻いた。

その後は登れる滝が連続し、二俣に着く。

最初の 12m 滝でロープを出そうとすると、2 人が「いらぬ」と言うので、これもノーザイルで越える。簡単だった。



←12m 滝は水量が少ない

次の18m 滝は、ロープを出して水流沿いを試したものの、足が不安定な状態で一手を出す決心ができず、右のルンゼに逃げた。ルンゼで石を落としてしまい、ビレイヤーに危うく当たるところだった。沢登りのビレイは落石に注意しなくてはならない。

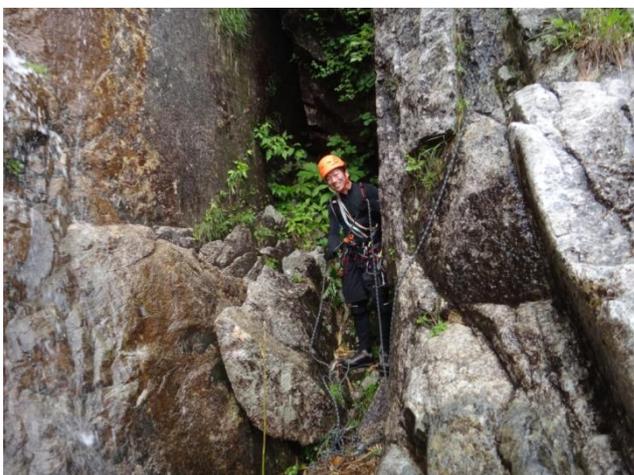
滝の上のピナクルで強固な支点がとれたので、長谷部にトップロープでトライしてもらおうが「難しい」という感想だった。遡行図に記載の「ホールドが豊富で快適」なラインを見逃したのかもしれない。

すぐに50m 滝。岩が固く、足は階段状なので快適だった。30m ほど登ると良い支点があったので2ピッチに分けた。1ピッチで登れたかもしれない。

深山ダムが滝の上からよく見えた。



←50m 滝。滝というか岩壁



←岩角で支点がとれた

次第に枝がうるさくなってきて、しばらく進むと水が涸れる。

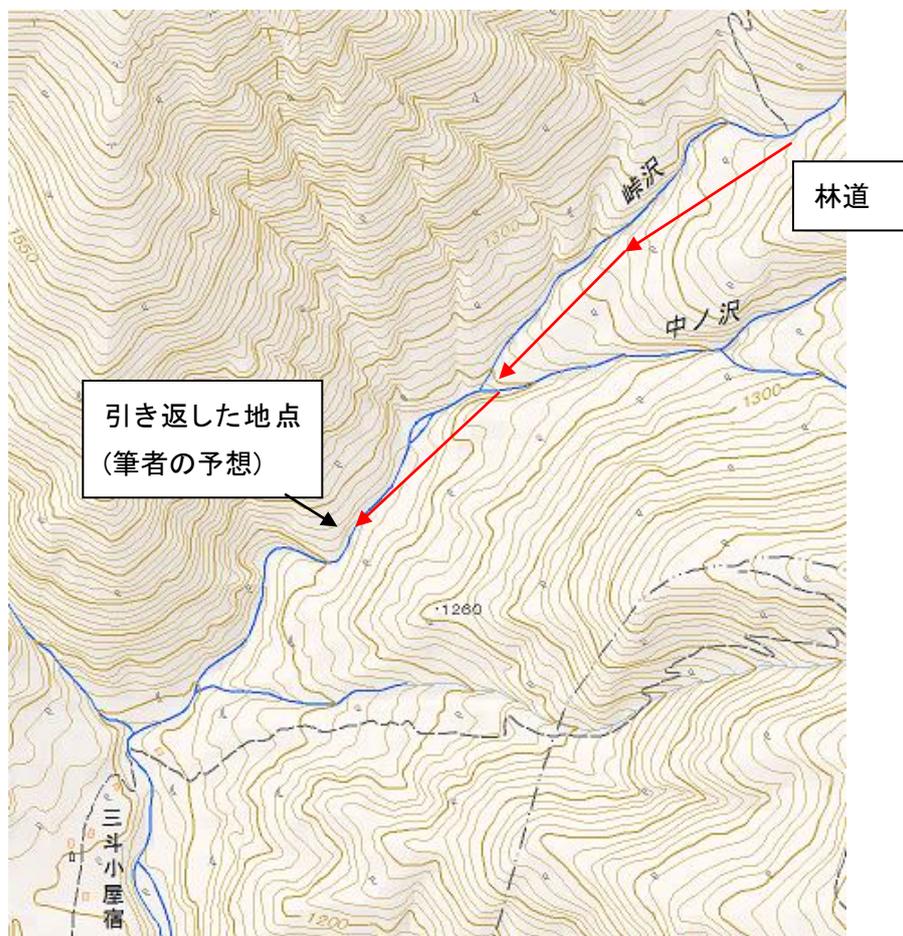
その後、視界が開け、ガレた斜面を登る。天気が良いと眺めが爽快なのだろうが、この時間帯からガスが出てきたため、視界の無い中を登る。

最後は腰の高さの笹藪を抜けて、大倉山の南南東の尾根に合流し、稜線に飛び出す。笹をつかんで登るが、2人は不慣れなため時間がかかる。標高差 150m 程度だったが、1 時間以上掛ったと思われる。

稜線にはニッコウキスゲの花が咲いていた。

靴を履き替えていると雨が強く降ってきたので、急いで下山する。

峠を越えた先に「三斗小屋宿への林道」という看板があったのでそちらへ行ってみるが(1/25000 図に道は無い)、途中で不意に道が無くなってしまふ。藪を漕ぐのは嫌だし、沢は雨で増水している。おとなしく来た道に戻る。



↑ 中ノ沢を下降すれば(容易に下降できるらしい)、道迷い点を通過するので検証できるはず

この登り返しで若林がへばる。「歩けないくらい眠かった」と後で話しているが、雨の中を長時間歩いたので、低体温症気味だったのかもしれない。

遅くなったので、三斗小屋温泉(大黒屋)で電話を借りて、山岳会へ下山連絡をする。旅館の方にたいへん親切にして頂き、ポカリスエットを1人1本頂いた。

三斗小屋温泉から車まで、暗闇の中を延々と歩く。途中、三斗小屋宿跡から南へ向かい、麦飯坂との分岐を西に曲がるのだが、暗いのと、雨降りなのと、疲れているのとの三重苦で、分岐に全く気付かなかった。ふとコンパスを見ると西向きに歩いており、ショックを受けた。

21時半に車。温泉も飲食店も閉まっているので、すごすごと帰る。